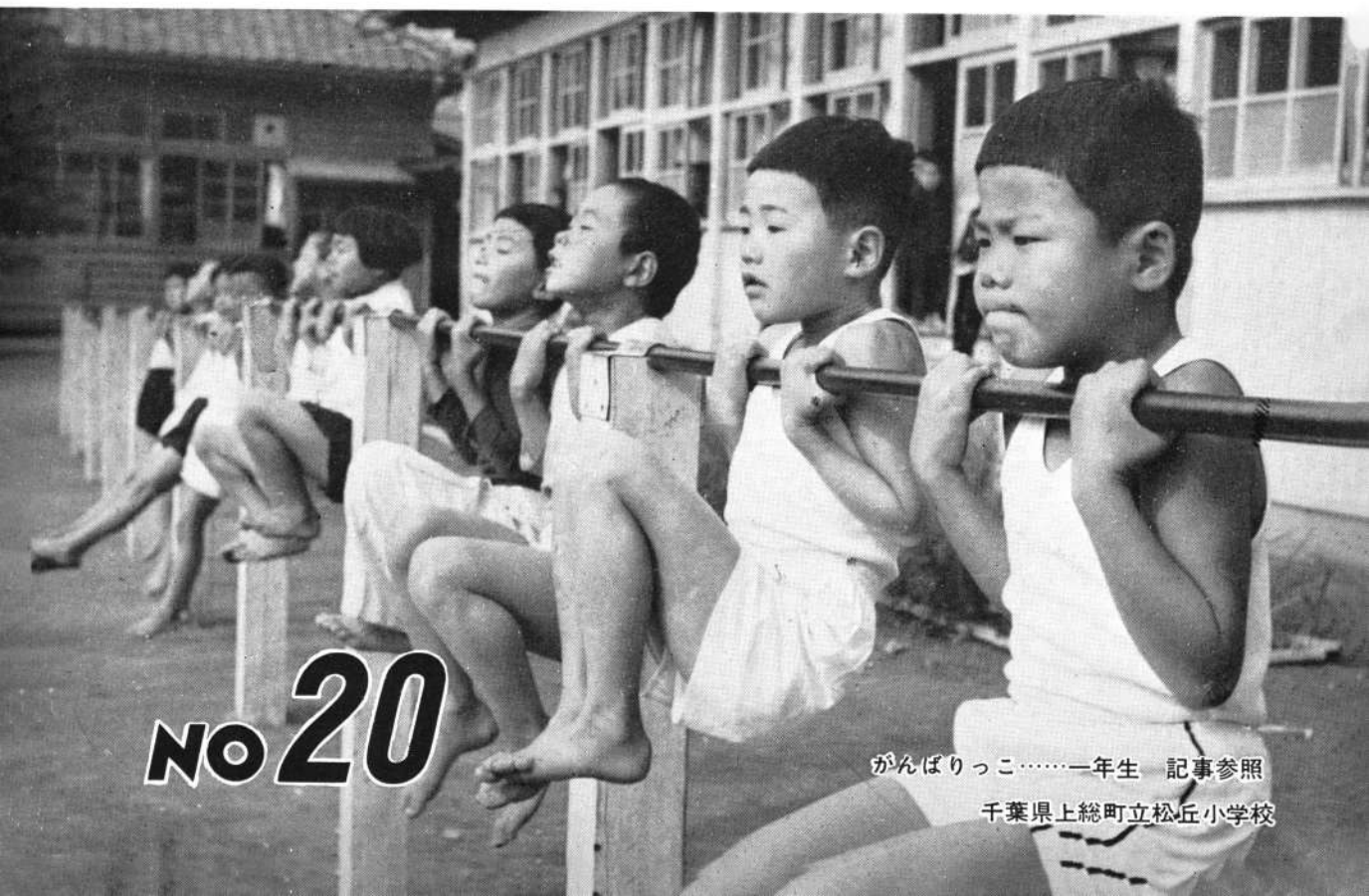
健康教育

十年後の日本人の体位はどの位か？…… 2

肝油の効果に関する実験…… 4

我が校の体育について…… 8

本校の健康教育の一部面……11



NO 20

がんばりっこ……一年生　記事参照

千葉県上総町立松丘小学校

十年後の日本人の体位はどの位か？

厚生省栄養課長
医学博士　大礒敏雄

博物館や神社の宝物殿などには入られた人は，誰でも気付くことだが，それらの場所に飾ってある鎧や兜の類が，もしこれを自分が身につけて見たら，さぞ大きくて，また重いものだろうと想像されるものが多い。

事実，その大部分は，今の人が，着て見たら，それこそ大がらで重たくて，とてもたくさんは歩けないしろものである。昔の人は，よくもあんなものを身につけて，その上，重い刀や槍まで持ち，その上旗さし物を背中に立てて，戦場を駆けめぐったものだと思う。それには，当時の人が，身体も大きく，体力もあったのだなあと思われることでしょう。

ところが，ヨーロッパの各地の博物館で見られる，いわゆる西洋の中世紀の甲冑は，どれもこれも見た目に小さく，あの立派な体格をしたヨーロッパ人には到底着られそうもないことを発見したので，コーペンハーゲンの博物館で，看守に問い直して見たところ，

「飛んでもない，これはイミテーションではなくて，真実，本物ですよ。今から百年も前のころの私たちの祖先は，実際にこれを着ていたものだから身体が小さかったのですね。」

という。なるほど，そこに立っている看守君は，堂々2メートルにもなろうという大男の前に，居並ぶ甲冑がまことに小さい。

「ではどうして，今のあなた方は大きくなったのですか？」

私の重ねての質問に対し，彼は次の如く答えた。

「私どもは，乳牛を飼って，バター，チーズをたくさん食べたおかげで，私どもの祖先よりも大きくなったのですよ。」と。

西洋人は，身体が大きく，日本人は身体が小さいと，とかく私共は思い込んでおり，またいつでも，そんなコンプレックスに悩んでいる。しかし，西洋人とて，決して最初から大きな身体をしていたのではない。また，日本人とて，決して，小さい身体が，その本来の姿ではない。彼等は酪農によって，よい蛋白質と，バランスのとれた栄養内容が，あれだけのよい身体を築き上げたのに反して，日本人は，長い間のあまりにも粗末な食生活が，貧弱な体を作り上げた。

最近の日本の子供達が，見違えるほど，大きく，その上はつらつと元気になったのは，実に，その食内容が改まってきたところに負うことが多いことは皆の認めるところである。しかし，これを欧米人と比較したら，これこそ，まだまだ相当に劣っていることに気付かれるでしょう。

我々は，ここ2,3年の経済の上昇振りに気をよくして，10年後には，一般の人々の所得は倍増するという見通しを立てている。これは誠に先の明かるい楽しいことであるが，さて，所得が倍増した暁は，その余裕ある経済力はどこへいくであろうか？　家も欲しいし，車もほしい。レジャーを楽しむ時間もあろうという楽しいプランで心の中はふくれるであろうが，さて，我々の健康はどうなるだろうか。はたして，体位，体力は倍増するであろうか？

そこで，私どもは，10年後，即ち，昭和45年には，我々の子供たちが，今の成長を幸いそのまま続けてくれたとしたら，どの位大きくなるであろうかという想像を考えてみた。それには，先ず二つの考え方がある。一つは，もし，この戦争がなかったとすれば，明治以来とにかく，子供の体位は，年々徐々に上昇してきているのであるから，その傾向を依然として辿るものとする考え。もう一つは，戦後，10数年の，日本の子供たちの成長の回復振りは，やや異例に属するが，この異例の成長振りが，今後も依然として，急速なのびを示すものとして考えられるとする見方。この二つの傾

向は，いずれも近い将来を推定するには，そのままではやはり，当を得たものとはいえない。そこで，この二つの傾向を土台にして，これに数学的な処理をほどこして得られた一つの推定値が，この春，栄養審議会から発表された，10年後の日本人の成長の予想値である。

日本人の体位（昭和45年）

年令	身長 (cm)		体重 (kg)	
	男	女	男	女
0	66.9	64.7	7.7	7.1
1	79.4	77.1	10.6	9.9
2	87.6	85.9	12.8	12.1
3	94.8	93.2	14.6	14.0
4	101.1	99.6	16.3	15.7
5	107.0	105.7	18.0	17.4
6	112.7	111.3	18.8	19.2
7	118.4	116.9	21.8	21.3
8	123.6	122.5	24.0	23.6
9	128.8	128.1	26.4	26.0
10	133.5	134.7	29.0	29.2
11	139.0	141.3	31.9	33 8
12	145.2	146.9	36.0	38.7
13	152.3	150.6	41.1	43.8
14	158.4	152 4	48.0	47.5
15	161.9	153.4	52.4	49.4
16	164.0	153.9	55.1	50.4
17	165.4	154.1	57 0	51.1
18	166.2	154.2	58.1	51.6
19	166.6	154.1	58.8	51 8
20～29	166.5	153.1	59.6	51.9
30～39	165.1	151.7	59.5	51.3
40～49	163.4	150 2	58.7	50.8
50～59	161.7	148 2	57.3	49.4
60～69	159.9	145.4	55.1	47.0
70～	157.5	142.1	52.2	43.7

これは丁度，アメリカに住む二世の身長，体重の平均値より下回るものであって，もちろん現在の日本人を上回る数値であるが，ちょうどこの中間の曲線と見て差しつかえない。

この10年後の予想体位曲線で，特に特徴と思われる点は，身長，体重共に小児期においてはあまり顕著な伸びは見られないが，成長期ではかなりの差が見られ，特に男子では，12歳，女子では10歳以上のいわゆる思春期にあるものの発育が目ざましい。このうち，男子では15歳以上，女子では13歳以上の年令層が，現在の同年配より遙かに大きく，ちょうど，1 年上の者を上回る位の身長，体重となっていることである。

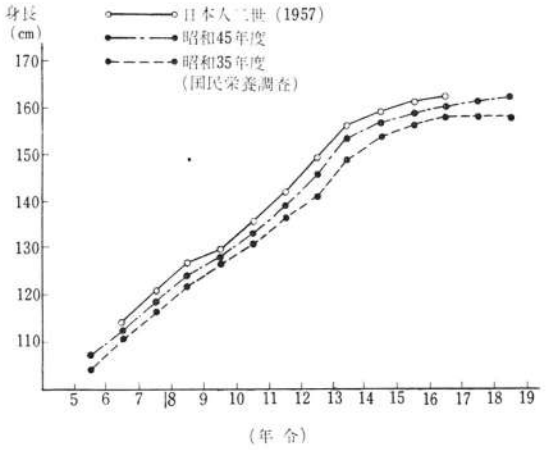
これらの数値は，いずれも，架空のものであって，確かという断定は下されないが，これから更に伸びゆく日本人の成長期のものの身長，体重として一応の目安が出た訳である。

従って，これからの私どもの栄養の取り方が更によくなれば，昭和45年をまたずに，この数値に到達するであろうし，唯漠然と，あり合わせな栄養方法でいては，到底この数値に達することができなくて，なお，2, 3 年は過ぎねばならぬかも知れぬ。

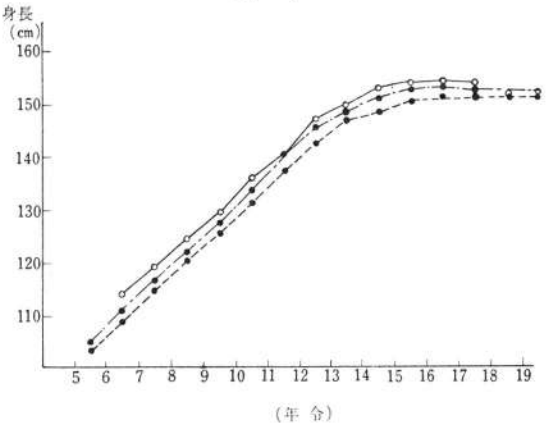
このことは，一にかかって，今後の日本人の食生活が，いかに改まっていくかにあるのであって，これからの子供たちを完全に発育させるのは，全く国民栄養全般の力ということができよう。この意味において，日本民族のたゆまざる体位の向上と健康の増進が大切なのである。

現在の体位及びアメリカ生まれの
日本人二世との身長比較

男　子



女　子



肝油の効果に関する実験

労働科学研究所
医学博士　高木和男

肝油の連続服用が健康によい効果を及ぼすということはむしろ余りに常識化してしまった感がある。そのためにつきつめてその効果は何かということになると明確に指摘できるようなものに乏しいという現状である。肝油を服んでいると風邪を引かないという統計は健康教育にも載せられたことがあるが，寄生虫卵保有に対する効果は古くから豚についての実験があるが，人間についての実証は少ないようである。暗順応能力の増進に関する効果はビタミンAの効果として古くから知られているが，肝油服用の効果として調査された例は余りないようである。さらに肝油が健康によい効果を及ぼすものならば，体格に対してもよい効果を及ぼしそうなものであるがこの実証はないようである。

この実験は改めて肝油の効果を確めたいと考えて行なったものであるが，この目的のためには長期間肝油の服用を行なっている学校で，服用率が比較的高く，長期連用児童がかなり数えられる学校を選ばねばならない。この条件にそう学校として，東京都中野区の某小学校を選んだ。この学校の肝油服用率は男子65.0%，女子60.1%でかなり高い。このうち調査の対象としたものは長期服用という条件から5,6学年生であるが，

その服用状況は

学年		総員	服用者	うち長期連用者	非連用者
5学年	男	150	105	72	48
	女	136	91	81	82
6学年	男	175	91	22	48
	女	151	66	60	46

注　うち長期連用者中には肝油以外のビタミン剤の連用者も除いてある。また非連用者とはして示したものは肝油をはじめ一切のビタミン剤の非連用者の意味である。

本校の児童の体格は一般に他よりもよく，表を簡単にするため1学年と5,6学年の学年について，全国平均，東京都平均とその体格を比較すれば次の表に示したように明かによいことがわかる。

		身長 (cm)		体重 (kg)		胸囲 (cm)		坐高 (cm)	
		男	女	男	女	男	女	男	女
1学年	本校	114.3	112.8	20.0	19.4	58.0	54.8	64.6	64.0
	東京都	112.8	112.1	17.3	18.9	56.4	55.0	64.1	63.7
	全国	111.3	110.3	18.8	18.4	56.4	54.6	63.2	62.7
5学年	本校	134.0	133.7	29.4	29.1	65.3	62.8	73.7	73.8
	東京都	133.2	134.1	28.7	29.2	64.2	63.4	73.7	73.9
	全国	131.2	131.5	27.8	28.0	63.9	62.9	72.1	72.0
6学年	本校	138.7	141.0	33.7	34.2	67.6	67.5	76.2	77.8
	東京都	137.9	140.1	31.4	33.1	66.3	66.9	75.3	76.7
	全国	135.9	137.6	30.5	31.9	66.0	66.0	74.2	75.5

まず，肝油連用者と非服用者の体格はどうであろうか。恐らく肝油の効果によって連用者の方がよい発育を示すであろうと予想した。この予想の下に両者を比較してみたところ，次のように見事に予想がはずれたのである。

	5年男子		5年女子		6年男子		6年女子	
	連用者	非服用者	連用者	非服用者	連用者	非服用者	連用者	非服用者
身長	134.9	133.0	132.2	133.9	137.8	138.2	141.0	141.1
体重	29.6	29.3	28.3	29.5	32.3	33.6	33.3	34.5
胸囲	65.0	64.3	62.0	63.5	66.8	68.8	66.4	67.6

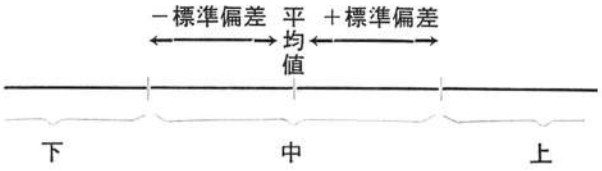
この表に示されたように両者に甲乙をつけ難いのである。

そこで，各個人別にこれを検討してみたところ，肝油連用者にはすでに1年生のときから体格の劣るものがかなり多く混入していることがわかった。考えてみればこれは当り前のことで，肝油を熱心に服むということ自体に弱い体をなおそうという努力が入っているわけであるから連用者に体格の悪いものが多いことは当り前のことで，むしろ，単なる平均値から上表のように甲乙のない体格が得られたということに肝油の効果があったのではないかと考えた。そこで，**この効果をもっと明瞭に示すためには1年生の時代に体格の悪かったものはどうか，良かったものはどうかというように，1年生時の体格で分類して，その分類ごとに5年，6年のときの体格を比較する必要がある。**

そこで，1年生のときの体格を分類するのはどのようにしたらよいかを考えた。体格の良し悪しは，身長，体重，胸囲等の総合したものとして判断せねばならない。そのためにはこれらを総合的に判断することのできる体格指数を用いるのがよいと考えた。しかし体格指数にも**ローレル，ベルベック，カウプ**等いろいろなものがあるので，このどれを用いることがよいかということをしらべた。その結果，ベルベック指数が体格の総合的判断を下すためには最もよい指数であるということがわかった。ただベルベック指数は次の式で示されるように，胸囲が式の中に入るために成人女子などを対象とする場合に不正確になりがちな点が最も大きな唯一の欠点であるといわれているのである。

$$\text{ベルベック指数（V指数）}=\frac{\text{体重}+\text{胸囲}}{\text{身長}}$$

しかしここでは1年生の体格分類のためにV指数を用いようというのであるから，まだ女子の乳房は発達せずにそのため，V指数の唯一の欠点は生じないわけである。こんなわけで，V指数を用いて，1年生の体格を分類することにした。そのためにはまず今の5年，6年生の1年生時の体格測定値から，個人毎に上記の式を用いて，V指数を計算した。次にこの平均値と標準偏差とをとった。標準偏差をとった理由は平均値の上に標準偏差だけの距離をとり（＋），また下に同じようにとったなら（－），この2点の間にはその統計の対象となった総例数の68%が入るということが統計学的に証明されているので，この場合には，この間に入る児童は平均的な体格，すなわち中位の体格をもつものと考えてよく，したがってこれより下のものは劣った体格，上のものは優れた体格と考えてよいわけである。このことから図のように1年生の体格を分類したのである。



このようにして，今の5年生と6年生とが1年生であったときの体格によって，彼等を上中下の3種に分類し，その各々について，今の体格を比較して見ると，次のように明らかに1年生のときに体格の劣っていたものには肝油の効果が見られるのである。

1年生時の体格分類による最終学年との発育差

性別	1年時体格分類	肝油服用分類	第5学年 身長	体重	胸囲	V指数	第6学年 身長	体重	胸囲	V指数
男	上	連用者	20.73	9.07	7.65	1.3	○28.84	○16 59	11 00	5.5
		非服用者	21.18	10.16	8.08	2.2	26 92	15.73	11 60	5.5
	中	連用者	○21.92	○9.72	6.12	○3.5	25.91	12 89	9.99	4.3
		非服用者	21.48	9.44	6.16	2 4	26.34	14 26	10.88	5.7
	下	連用者	20.78	○9.82	○8.82	○3.6	○28.84	○13.72	○11.22	○6.8
		非服用者	21.24	9.43	6.72	2 4	24 92	12.20	10.60	5.0
女	上	連用者	○22.83	9.88	6.69	1.6	28.93	15.00	10.67	6.7
		非服用者	22.60	11.45	8.88	3.2	30.02	15.94	11.45	7.3
	中	連用者	○22.84	○10.46	○10.12	2.7	29.88	15.55	11.79	6.1
		非服用者	22.82	10.20	8.20	2.7	30.13	16.44	12.47	6.3
	下	連用者	22.19	8 54	7.44	1.1	○28.07	○12.74	○11.32	5.6
		非服用者	24.44	15.44	11.66	9.2	25.28	10,50	9.13	7.5

○印は連用者が優っているもの

図1　現在5年生の1年生時からの発育量
（1年生時の体格により上，中，下に分類）
連用者　非服用者

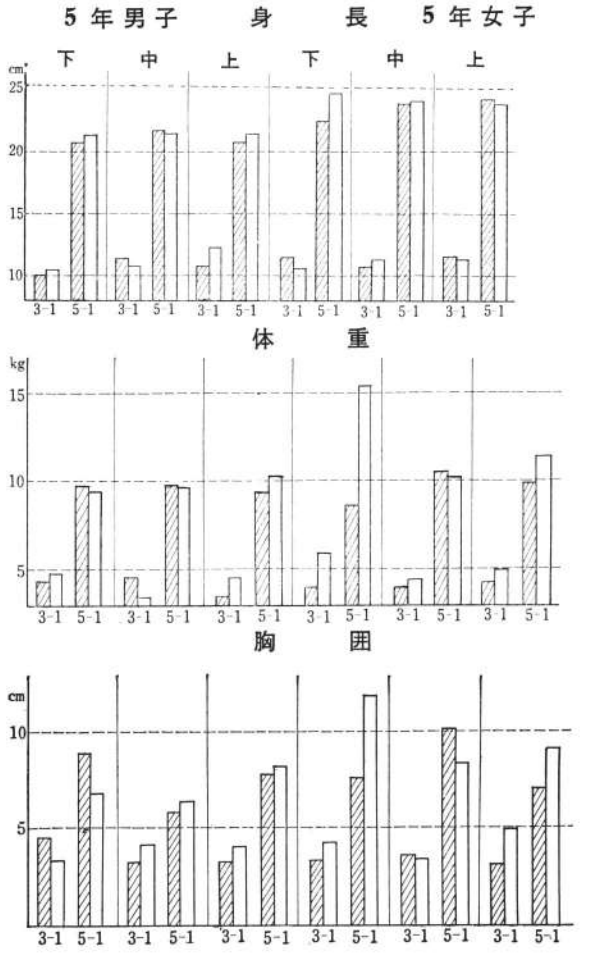
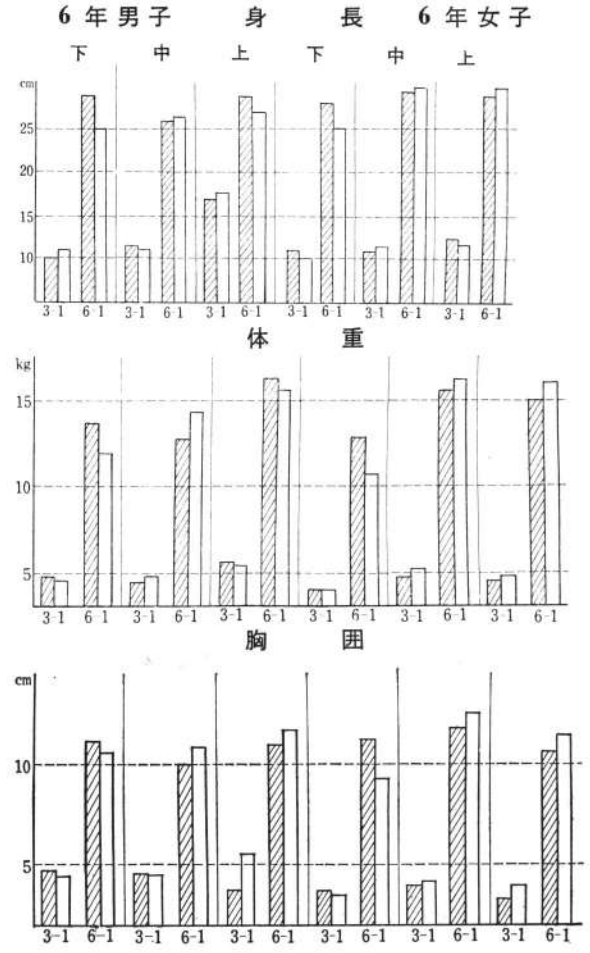


図2　現在6年生の1年生時からの発育量
（1年生時の体格により上，中，下に分類）
連用者　非服用者



以上のように肝油の発育に対する効果は幼少時の発育が悪かったものに特に顕著であることが明らかに見られる。しかしこの外に効果はないものであろうか，次の2つは連用者，非服者別に寄生虫卵保有率をくらべたもの，および暗順応の能力をしらべたものであるが，寄生虫卵保有率も，暗順応能力もともに肝油連用者の方がよく，しかも長期連用した高学年生の方が両者の開きが大きいように見える。この実験で以上3種の肝油の効果が発見できたが，記録の不備などのため，欠席率，眼疾患等についての効果を知ることができなかったことは残念である。

図3　寄生虫卵保有者率

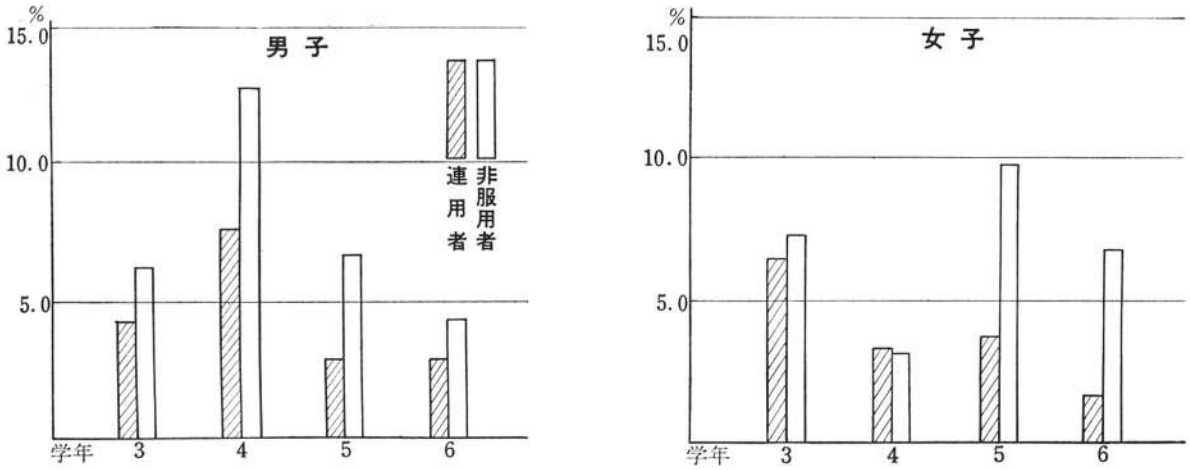
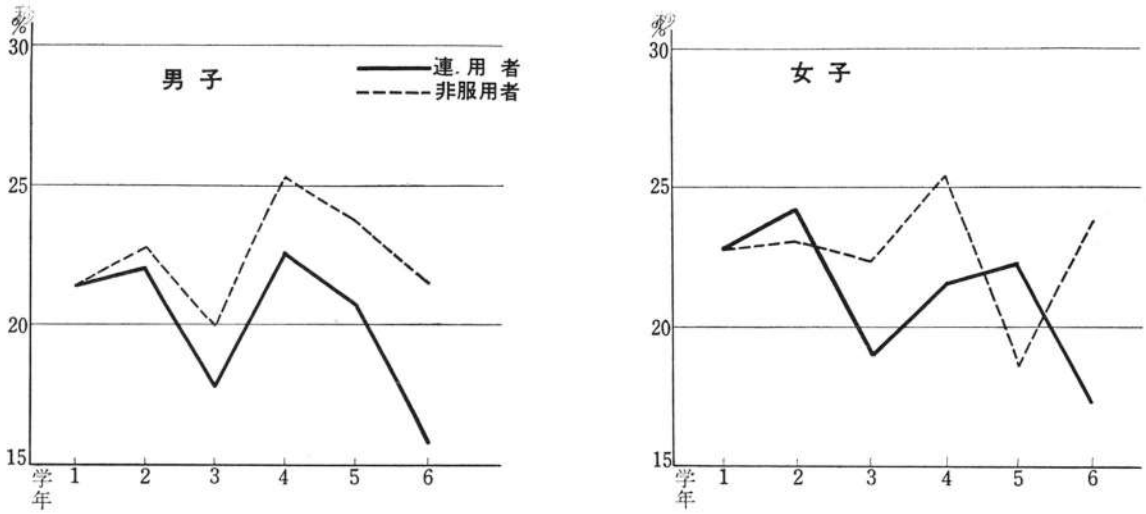
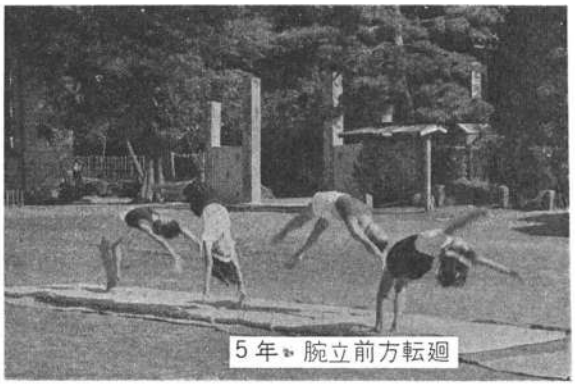


図4　暗順応値平均値



我が校の体育について

千葉県君津郡上総町立松丘小学校
教頭　小　原　　誠


5年・腕立前方転廻

本校の体育を学校教育の中心として経営に専心し努力し始めたのは昭和30年，月日のたつのは早いもので，すでに5年前になる。経営の根幹とし実施するにはそれ相当の理由がなければならぬ。幾度か真剣な職員会議が遅くまで開催されたが，その第1は，本校が房総半島の中心に位置し，地区民のほとんどが農林業を中心として生活し，性格的にも非常に温和で，いわば農山村特有の積極性に欠けていること，従って750余の児童達も同様の性格で気力に乏しいこと，第2には長い間の食生活，地域的環境から児童の体位体力は近隣ことに海岸都市の児童に比較して低下していることであった。

右の2点を解決するためには学校体育を経営の中心とし，また体位の向上のためには食生活の改善即ち学校給食の完全実施を行なう以外に方法はないとの結論に達し，特に学校給食の件に関してはＰＴＡと協力し与論の喚起につとめ，幸い町当局，地区民の理解により一昨年から給食の実現を見，児童の体位も徐々に向上しつつありますが，細かいデーター等による発表は紙数等の制限もありますので省略し体育指導面のみについて述べたいと思います。

1.　体育の日常化につとめること

子供たちが動き遊びまわることは本能である。与えられた体育指導の時間は1週3時間。それも雨天ならば本校のような体育施設の少い学校ならどうにもならない。教室で他の教科に振り向ける以外に方法がないとしたら1週3時間の授業が2時間または1時間にもなって，折角先生方が苦労されてもその効果は，蝸牛の歩みにすぎないことになる。

体育が教育であるならば，子供たちの生命である日常の遊びにまで浸透し，ついには子供たちの遊びを体育化することになるであろう。

本校はこの点に留意し休憩時間あるいは放課後児童と共に先生方が遊んでやり，その間に子供達の遊ぶ種目を研究しこれを体育化するように努力してきた。これは私ども学校教育に非常にプラスになり学校全体が1カ月後には驚くほど明かるくなり，先生方1人々々の教室経営が非常に楽しくなりまた他の学習も積極化してきた。

要するに，私どもは子供たちの遊びを体育化することを主眼として1カ月，学校経営に予想以上のプラス面を見出したのである。

2.　体育指導には喜びと感激を

どんな場合でも成功の喜びは格別である。教師は子供達の一人々々を見つめて昨日よりすぐれている点を見出すべきではなかろうか。昨日よりは今日，先刻よりは今，子供たちは常に進歩がある。ああよくできた，さっきよりはうまい，先生の腹の底から出た言葉は常に児童たちにとっては新鮮な言葉であり，今度こそは先生に言葉をかけてもらおうと目の色をかえてほんとうに全身全霊でとびこんでくる。私たちはどんなへたな子どもたちでもよい，必ずよい点があるはずだ。1時間の指導に全児童に言葉をかけ絶えず子供達に喜びと感激を与えるべきではなかろうか。子供たちの目の輝きは一層増し，今度の体育の時間までには一層の練習をはげみ，日常の遊びも鉄棒や跳箱にあるいはマットに集中することができ体育の日常化が自然に達成できるのである。

3.　段階指導を考えよ

一足跳びに高次な運動を要求することは極めて危険であり思わぬ事故が生じ易い。事故の生ずることは体育指導では最大のマイナスである。指導者は常に細心

の注意をはらい，知らず知らずに要求点に到達すべく指導することが第一である。

子供の現状を熟知し絶えず未踏地を示唆しつつ一歩々々進むならば絶対に事故が起こらぬものである。本校は体育教育を，なかんずく器具器械の指導を5カ年間事故は皆無，事故の生ずることが不思議なくらいだ。要するに子供たちに高い要求点を求めず進むことが体育の向上の要けつである。

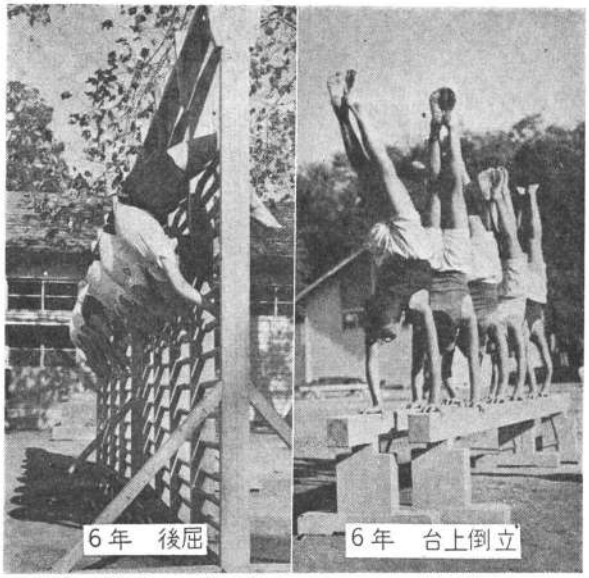
2年　リズムあそび

2年　倒立前進

技術に走ると必ず無理が生じ，時間には進歩したように思えるが，子供たちは体育に恐怖ににたものをもち永続性がない。体育の研究学校等によく見られるが，次の年もまたその次の年も進歩がないのは段階指導をおろそかにしたのが原因ではなかろうか。

本校は先生方が要求しないにもかかわらず，5年生

5年　腕立前方転廻



6年　後屈

6年　台上倒立

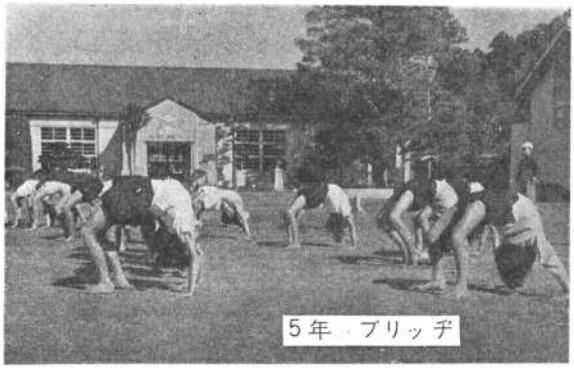
の男女が懸垂では蹴上りを中心とした連続技を，マットワークではバックハンドの連続位平気でやっているが，これは低学年から培われた柔軟性と敏捷性に依るものである。本校は3年連続全日本体操供演大会に出場し，全国代表の高校生に堂々匹敵する演技を公開することができたのはこれが原因である。

4.　教材に有機性を望む

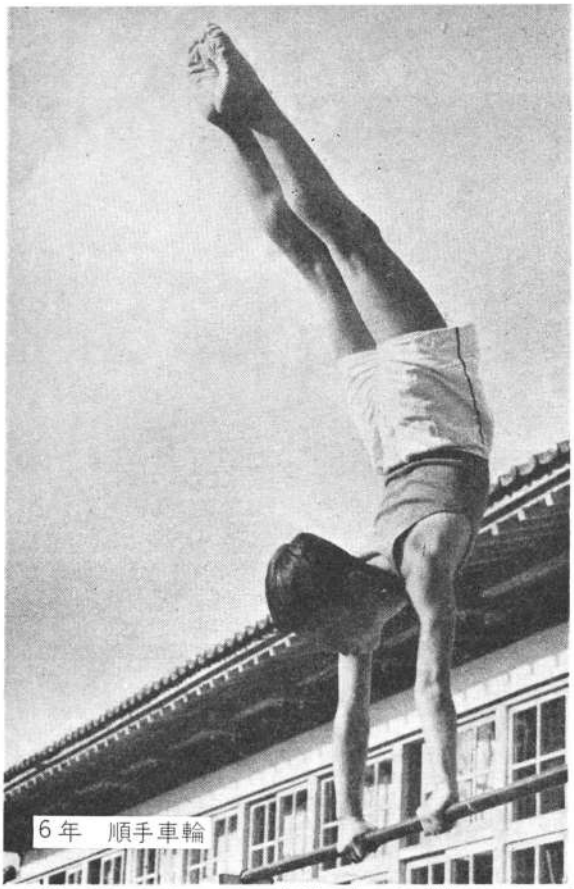
リズムのない生活は空虚である。すべてリズムがあると同様1時間の流れにリズムがなければならない。私は先生方に授業は名曲でなければならない。1時間の流れの中に山あり谷あり激流があってはじめて生々とした授業である。それはすべてに有機性のあることを意味する。

準備運動を見たら主運動がわかるような教案授業を，最初の1音に依って次の1音が決せられると同様無関係なその場しのぎの蛇足の多い授業は教育の邪道であるし，反面子供たちの訓育躾の面を害し体育指導によって体育をきずつけるものである。

5.　施設の充実と活用



5年　ブリッヂ



6年　順手車輪

施設がなければほんとうの指導の完ぺきは期せられないが施設ばかりではだめだ。その活用を最大限にしなければならない。

我が校は第1回公開の時はマット1枚しかないまさに貧弱な施設であった。たまたま公開の2カ月前，近くの学校でほとんど使用していないマット跳箱を借用し公開に間にあわせ当日他校の名前が大きく出ている用具を使用したのが本当に幸いし，委員会当局を動かし用具を徐々に充実し現在では一応授業に支障のない状態であるが，要は子供たちに使用しやすい状態にまた位置にしておくことが大切である。

鉄棒なら教室の近く日当りのよい，雨が降ってもすぐ使用できるように鉄棒の下をやや高めに，1週間に一度位は土盛りするよう留意すべきである。

砂場についても同様，本校の砂場は縦15m 横6m 深さ1m，いつでも喜んで安心して使用できるよう新鮮な川砂を入れてある。先日も4年生女子が砂場に跳箱をおき，後方宙返りを4，5人で遊びとして行なっているのを見，幸福な子供たちよ幸多かれと祈りつつ言葉をかわしてやった。

6.　松丘の子供たち

先生方と話したがる子供たち，どんなに夢中で遊んでいるときでも先生の姿が見えると，「先生お早うございます」「さようなら」直接授業に出ていない私の顔を見て3，4年生位の女の子供たちまでが「先生○○さんは今日蹴上りができたよ，私はね倒立で2m位歩けるようになったよ，今度は先生教えてね」と素朴であるが本当に親しみをもって話しかけてくる子供たちである。松丘の子供たちは実に素直であり，よく遊びよく働く，険しい山道を両親と一諸に炭俵を背に負う子供たち，そして私たちは体育では日本一だと自ら信ずる子供たち。おおかたの先生方は本校には体育の経験者が多いと考えているかも知れないが，本校には体育の経験者はほとんど皆無であり先生方は子供たちに教えるものは何ももっていない。子供たちは先生方は鉄棒やマットはできないものと考えている。先生方が逆上りの練習をしていると「先生逆上りはこうやった方がよい」等と助言してくれる。先生がどんなにへたでも決して尊敬こそすれ笑わない子供たちなのだ。私も先生方はできなくて結構，ただ子供たちのよさを認め話しかけることができればそれでよいのだと。事実本校は体育全校公開第4年目を迎えて，今子供たちと汗をながしてやっているが未だ財政上の関係もあり，公開の日のみ講師を迎え，他は素直な子供たちの楽しくてやめなさいといっても止めそうもない，日常の生活化している子供たちの体育に教わりつつ進んでいるのが本校の現状である。

5年　体前倒

体育摘語（折々に諸先輩から）

1. 教師の生命は若さなのだ，青年にも老人はたくさんいる。
2. 体育指導三カ条，服装，年令，教態。
3. 体が口ほど，目ほどに。
4. 創造性なき教育は退歩なのだ。
5. とかく体育指導に生理面のみ考え有機性が忘れられ易い。
6. 前人未踏の地と考えながら生徒より半歩高いところを示唆して進むべきだ。
7. 常に体育の日常化，生活化，スポーツ化を考えるべきだ。
8. 技術指導に走るのは危険，自ら児童にとびこみ人間陶冶につとむべきだ。
9. 本能をつまむことが体育指導であってはならない。うごくことが子供の本能なのだ。
10. 号令は子供たちを誘導啓発するものだ，単なる合図ではない。
11. よき教師は子供たちから教わるのがうまい。
12. 行なうこと見ること観行一致してこそ体育なのだ。

本校の健康教育の一部面

三重県松阪市
大河内第二小学校長　新屋栄一

本校は松阪市の西端部にあたり白猪山の山ろくにある二部落を校区としている。S部落は140戸，T部落は68戸，人家は点々として散存している。材木が得やすい上に家屋には多くの金をかけているので家並みは立派なものが多い。

農林業が主であるが農家の耕作地平均は50～60A位で一毛作。山林の大木は伐採されて杉・檜等の若苗木のところが多く，木炭の製造もわずかながら製縄と共に副業になっている。男も女も勤勉で質実，貯蓄心もかなりあるように考えられる。

児童も上記の家庭環境のためか従順であり素直であるが，その反面進取の意気が足らないように思われる。終戦後子供の体質が悪くなり，とくに乳幼児の死亡率が高いので10年前から母子愛育地区となり，現在も母子問題には力を入れている実状である。児童の体格の悪い原因も種々あろうが食生活に対する考えが足りなかったこともその一つであろう。本校着任以来まず健康な児童の育成を第一義として明朗にして立派な体格の持主になるように努力してきた。

その一つとして母親学級を通じて食生活の改善，とくに偏食をやめさせるように力説した。第二には健全な歯を持つようにハミガキ教練を始めた。毎週土曜はレコードによるハミガキ教練日である。第三には毎学期身重・体重の測定を行なって発育に対する子供の関心を高めている。第四には冬男も女も登校下校の途中エリ巻を一さい禁止し，現在は1名もしているものはない。第五には肝油を児童に服用をすすめた。服用してから5カ年になったので一応好結果と思われることを発表したい。もちろん肝油服用の効果であると明らかに指示することはできないが。

1.　身長体重が5年以前は県の平均を下回っていたが，県平均より上位となり良好となったこと

2.　出席率がよくなったこと。当初92～93%であったが現在は平均99%以上で皆出席の日が多くなった事。

3.　風邪にかかる児童が無く流感にかかるものも稀である。流感の心配はいらないと思っている。本年も前年も流感は本校は出なかった。

流感は校門前を素通りしてくれる。こう考えると誠にうれしいことである。

4.　冬期に凍傷にかかる子供がいるが，本年あたりは寒かったのにもかかわらず，調査によると重いのや軽いのを合せて15名位であった。

5.　親の報告によると子供の夜尿症が止まってありがたいとか，また先天性のゼンソクでながい間困っていたがいつのまにか治ってしまった，感謝にたえないとお礼に見えた。

こんなことは肝油をのんだ直接の効果とはいえないだろうが肝油服用によって栄養もよくなり健康も増進して病気や故障が治ってくることはいえるであろう。弱い病気勝の子供をもつ親心，そう信じている親の気持を無視することはできない。

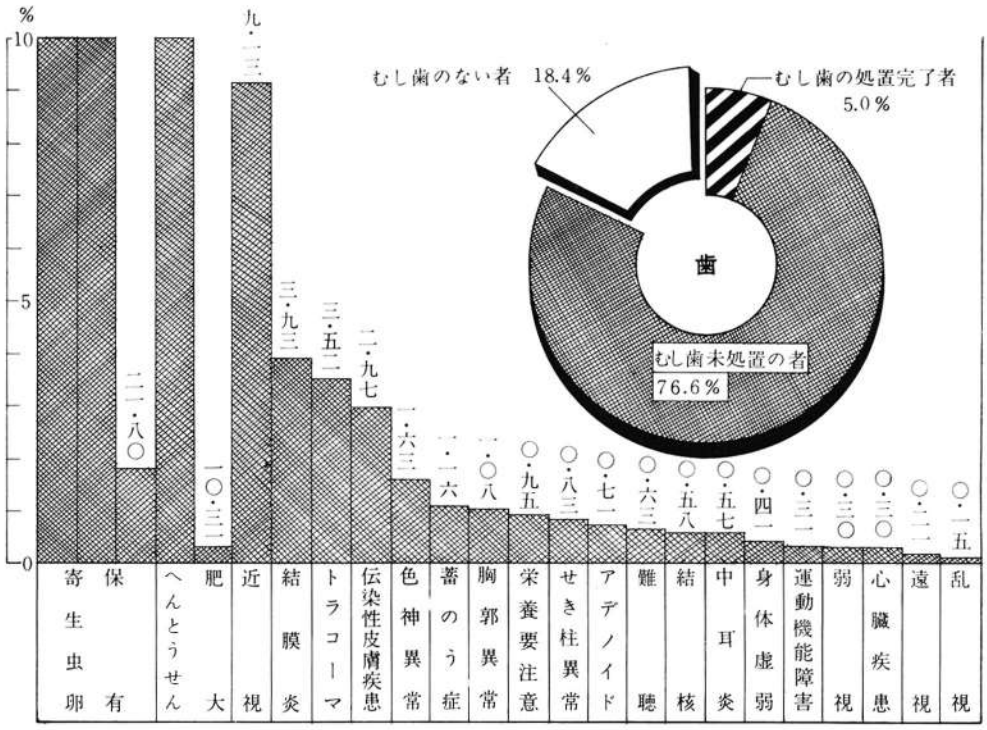
要するに児童が大変に元気で朗らかになり体位も向上した。6カ年皆出席者も増しつつある。中学校に入学した本校出身の生徒たちが体力だけでなく気力でも旺盛であると評せられていることはうれしい限りである。母親が学校にきては子供が丈夫になってきたといって，ますます子供の健康に留意し教育に協力してくれるようになったことはうれしいことである。

学童の体位や栄養などに関するご見解やデーターを寄せられた大磯・高木両博士の玉稿。日本一の折紙をつけられた松丘小の体育。流行性感冒が校門前を素通りするとの新屋校長の実践記録等，貴重な記事でみたされたことを感謝しています。　――編集子――

健康教育第二十号
昭和三十六年八月二十日印刷
昭和三十六年八月二十五日発行
編集兼発行人 寺田佐平
発行所 河合研究所学術部
東京都中野区昭和通二ノ二三
電話東京(三七四六・五八九一)
(定価一〇円)

小学生の疾病異常（昭和34年度）

文部省学校衛生報告書による



カワイ

ビタミンAの含量の正確と
安定度の高いカワイの製品

カワイ肝油ドロップ
カワイ綜合肝油ドロップ
綜合アドベリン錠
ネオアドベリン
カワイカルシウム錠

給食強化剤アドリッチ
ビタミンA アセテート
ビタミンA パルミテート
ドライフォーム結晶

新カワイ駆虫錠

製造発売元 河合製薬株式会社
東京都中野区野方町2－1171
電話東京(385)3111番(代表)

河合研究所
東京都中野区昭和通2－23
電話東京(361)3746・5891